

【二】次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

雪が一年の半分は降る雪国の人と話をした。雪のことばかり話した。

「ねえ、屋根にもいっぱい雪が積もるの」

「うん、屋根に上がって雪おろしをすることもあるよ」と、友人は言う。私は聞く。

「そして、ずっと溶けないの。ずっと雪。春まで真っ白なの」

「うん、毎日毎日まいにち雪。二階の窓近くまで積もるときもあるよ」

「じゃ、家の出入りはどうするの。閉じこめられるの」

「だから毎朝、人の出入り分雪をかくんだって」

「ねえ、北海道ってどんなところ」

1
2
3
4

① そう言う友人にマネかれて初めて北海道を訪れ野幌に着くと、屋根も道も線路も木々も真っ白のその中に、ナナカマドの並木が赤い実をたわわにつけていた。(1)と、宝石のように。

② こんな夢のような、お伽話の絵のようなケシキが日本にあるのかと、夢見ごっこになった。初めての風景が見慣れたものになる前に、初めて聞く音楽が耳慣れたものになる前に、出会いの感動はしみしみ身体にしみこんで、やがてそれは心臓の近くで結晶になる。思い出すという

ことは、その結晶を思い出すということだから、今見るナナカマドより記憶の中のナナカマドの方がもつと美しかったりする。やがてナナカマドに慣れると。

なのに不思議だ。雪だけはいつも美しい。毎回、新たな結晶が出来ているか、増殖しているからなのか？ だから、雪の誘いを私はコトワれない。

奥志賀の、(2) した雪を見に来ませんかと言われれば飛んでゆき、兼六園の雪吊りは見事ですと聞けば金沢へ、冬の八甲田山はすごいですと言われて青森へ。マッターホルンを見られる展望台があると聞いてスイスのツェルマットへ。三つのロープウェイをゆらゆら降りついで、手すりにしがみついて階段を上がって展望台に立った時は絶壁の恐怖にひびが震え、もう二度と来ないぞと誓ったが、雪山の美しさはしつかり記憶され結晶体となった。

雪国の人にとって雪は日常なのだろうけど、九州生まれの私にはやはり雪とは贈り物で、(A) のことで、だから魅せられるのだと思っていた。(3) ある夏。北海道の旭川へ出かけると、そこには、雪の美術館 という、雪のフォルムや雪の写真や絵を並べている館があった。その地下室はひんやりとしていた。巨大な氷柱が身の丈よりも高く並ぶ間の道を歩くようになっていた。毎日をかけて氷柱を育てるのだという。

その、夏の氷柱という非日常を見ながら思った。もしかして、雪国にとつても雪は日常から飛翔した非日常なのかもしれない。でなければなぜ夏に、冬の世界を恋しがるのか。雪が非日常だとしたら、雪の降る、世界の半分は (B) だ。青い地球の半分がそうで、世界には昼と夜の他に、夢のまどろみと現実のメザメがあつて、夢の中でつくられる結晶が、現実を生きやすく、美しいものにしてくれているのかもしれない。

(4) 雪国の人もまた、雪の不思議を語るのだ。白い世界の夢の記憶を、結晶にして秘めるために。

(萩尾望都「一瞬と永遠と」より)

注 ナナカマド：バラ科の木。赤く紅葉する

雪吊り：冬に雪がついて木の枝が折れないように縄で枝をつること

飛翔：空高く飛びめぐること

問一 〓線①～⑤のカタカナは漢字に直しなさい。また、漢字は読みを答えなさい。

問二 〓線 a、b の言葉の意味をそれぞれ選び、記号で答えなさい。

a 耳慣れた		b フォルム	
ア	聞き慣れている	ア	冷たさ
イ	必死に聞き続けた	イ	見た目の形
ウ	耳に残っている	ウ	凍る様子
エ	耳にやさしい	エ	成り立ち

問三 この文章には次の言葉が抜けています。入るところの直前の五文字を抜き出しなさい。(句読点も字数に加えます)
冬はやらない、夏だけだという。

問四 文中の 1～4には次のア～エの言葉が入ります。入るところを記号で答えなさい。

- ア 「ない。じゃ、雪だと、地平線まで雪なの」
- イ 「すごい」
- ウ 「そう、地平線まで真っ白」
- エ 「地平線があるよ。地平線で、見たことある」

問五 (1)、(2) にあてはまる言葉を次から選び、記号で答えなさい。(記号は一度しか使えません)

- ア サラサラ
- イ チラチラ
- ウ ハラハラ
- エ キラキラ

問六（ 3 ）（ 4 ）にあてはまる言葉を次から選び、記号で答えなさい。（記号は一度しか使えません）

ア また イ だから ウ つまり エ しかし

問七 —— 線1 「それ」は、何を指していますか。文中から六字で抜き出して答えなさい。

問八 —— 線2 について、次の問いに答えなさい。

a このようにいえるのはなぜですか。次から選び、記号で答えなさい。

ア 記憶の中のナナカマドは、作者が最初に好きになった花だから。

イ 記憶の中のナナカマドは、作者の人生の象徴しやうちゆうとなつていているものだから。

ウ 記憶の中のナナカマドは、現実のものはまったく種類が違ちがうから。

エ 記憶の中のナナカマドには、最初に出会つた感動がまつているから。

b この部分に使われている表現技巧びんげんぎこうを次から選び、記号で答えなさい。

ア 反復法 イ 倒置法たうちほう ウ 擬人法ぎじんほう エ 比喩ひゆ

問九 —— 線3 「雪の誘い」とは何を指していますか。次から選び、記号で答えなさい。

ア 美しい雪の結晶を作つてみないかという誘い。

イ 雪の美しさを理解してみないかという誘い。

ウ 雪を降らせにこないかという誘い。

エ 美しい雪を見に来ないかという誘い。

問十 (A)、(B)に共通して入る言葉を文中から三字で抜き出して答えなさい。

問十一 この文章の内容に合うものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 雪は、地球の半分で経験できるものだから、その感動は半分の国にしか伝わらない。
- イ 雪国の人にとっても雪は非日常なものであり、雪国の人もその感動を胸に秘めている。
- ウ 雪は広く世界中で親しまれているものだから、これからもそのことを伝えていくべきだ。
- エ 雪国では、雪は夏でも変わりなく親しまれているので、いつも日常のものとなっている。

【二】次の文章は、歌集『万葉集』の歌について述べたものです。読んで後の問いに答えなさい。

石走る垂水の上のさわらびの萌え出づる春になりけるかも（志貴皇子）

（訳） 岩の上をほとばしり流れ出る滝のほとりの蕨が萌え出すように天に向かって伸びてゆく……。春になった！

少しムズカしい話となりますが、「象徴」という言葉があります。ここに、学校の旗があるとしみましょう。旗は学校そのものではありませんね。しかし、その旗があることによつて、旗が学校そのものを表すことがあります。たとえば、高等学校総合体育大会においては、各学校が、それぞれの学校の旗を持つて集つて来ます。その旗が会場にあるということは、その学校が出場していることを表しているのです。

国ならば、国旗というようになりますね。ですから、オリンピック大会で、優勝した選手の国旗を掲揚する時には、どの国の人でも、その国旗と国歌にケイイを払わなくてはならないのです。校旗が（ア）を、国旗が（イ）を象徴しているということは、そういうことなのです。

では、春がやってきたことを象徴するものは何でしょうか。ある人は雪解けというでしょう。ある人は、つくしんぼうが出たというかもしれませんね。（A）、この場合は、雪解けやつくしんぼうで、春が来たことを表していることとなります。ですから、雪解けやつくしんぼうは春を象徴するものだという事になります。この歌は、春がやって来たことを、わらびの芽吹きで象徴的に表した歌です。

『万葉集』が好きだという人に、「『万葉集』で好きな歌をあげてください」と言うと、この歌をあげる人がひじょうに多いのです。なぜ多いのか。私が思うには、春が来た喜びをこれだけ率直に、これだけ上品に、そしてこれだけ生き生きと描いた歌がほかにないからだろうと思います。

この歌は、巻八の最初に掲げられた歌です。各巻の巻頭の歌には、重要な意味があります。古くからの名歌。さらには有名な人の歌。そし

て何よりも歌そのものが素晴らしくなくてはなりません。そのように三拍子揃わないと、巻頭歌には選ばれないのです。天智天皇の子どもである志貴皇子の歌はひじょうに格調が高い歌です。巻頭歌にふさわしい歌と考えられたのでしょうかね。

「ウ」は「垂水」にかかる枕詞ですが、この句は歌全体に一つの動きを与えているといえるでしょう。垂水の様子を生き生きとしたものにしてくれるのです。(B)、この「ウ」という言葉によって、水の流れを私たちは感ずることができるといえるのです。

「垂水」は滝。滝の上のとは、滝の近くのと考えてもよいです。滝の近く、すなわち水しぶきが飛んでいるようなところに、わらびがあるイメージしてかまいません。

私は毎年四月になり新入生を迎えると、必ずこの歌を講義することにしていました。新入生をシユクフクするために。この国には、こんなすばらしい歌があるんだよ、ということをお伝えたくて。

(上野誠「入門万葉集」より〈問題の都合上一部を改めています〉)

問一 〓線①〜⑤のカタカナは漢字に直さない。また、漢字は読みを答えなさい。

問二 (A)、(B)に共通して入る言葉を次から選び、記号で答えなさい。

ア しかし イ または ウ つまり エ そして

問三 (ア)、(イ)にあてはまる言葉をそれぞれ文中から抜き出して答えなさい。

問四 〓線1のように、万葉集が好きで、この「石走る・」の歌を好きな人が多いのはなぜでしょうか。「・」から」につながるように、

文中から五十字以内で抜き出して、最初と最後の三字を答えなさい。(句読点も字数に含めます)

問五 — 線2 「各巻の巻頭の歌」として選ばれるにはどんな歌か。次から当てはまるものをすべて選び、記号で答えなさい。

ア 有名な人の歌 イ 理解しやすい歌 ウ 古くからの名歌

エ 歌そのものが素晴らしい歌 オ 意味がはつきりした歌

問六 (ウ) に共通して入る言葉を歌の中から抜き出して答えなさい。

問七 「万葉集」の成立した時代を次から選んで記号で答えなさい。

ア 奈良時代 イ 平安時代 ウ 鎌倉時代 エ 室町時代

国語解答

小計44点

2点×5	問一	① 招かれ マネかれ	② 景色 ケシキ	③ 断れ コトワレ	④ てんぼう台 展望台	⑤ 目覚め メザメ
2点×2	問二	a ア	b イ			
3点	問三	だ　と　い　う　。				
2点×2	問四	1 エ	2 ア	3 ウ	4 イ	
2点×2	問五					
2点×2	問六	3 エ	4 イ			
2点×2	問七	出　会　い　の　感　動				
2点×2	問八	a エ	b イ			
3点	問九	エ				
3点	問十	非　日　常				
3点	問十一	イ				

小計26点

2点×5	問一	① 難しい ムズカしい	② 敬意 ケイイ	③ じゅうよう 重要	④ かくちよう 格調	⑤ 祝福 シユクフク
2点	問二	ウ				
2点×2	問三	ア	学校	イ	国	
3点	問四	春　が　来　る　に　な　い　か　ら				
3点	問五	ア・ウ・エ				
2点	問六	石走る				
2点	問七	ア				

小計10点

2点×5	1	鼻	2	指	3	足	4	手	5	頭
------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

小計10点

2点×5	1	×	2	×	3	○	4	○	5	×
------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

小計10点

2点×5	1	調子	2	助言	3	利点	4	主題	5	危険
------	---	----	---	----	---	----	---	----	---	----